

研究発表もうしこみフォーム

氏名：牛根靖裕¹⁾・古松崇志²⁾・松川節³⁾・小野浩⁴⁾・齊藤茂雄⁵⁾・高井龍³⁾・伴真一郎³⁾・毛利英介⁶⁾

氏名のローマ字表記：USHINE Yasuhiro, FURUMATSU Takashi, MATSUKAWA Takashi, ONO Hiroshi, SAITO Shigeo, TAKAI Ryu, BAN Shin'ichiro, MORI Eisuke

所属：1) 立命館大学 2) 京都大学 3) 大谷大学 4) 京都橘大学 5) 大阪大学 6) 関西大学

専門分野：モンゴル史など

発表のタイトル：コズロフ蒐集ハラホト出土モンゴル語印刷文献断簡 G110r について——『大元通制』ウイグル字モンゴル語訳の発見——

発表要旨（600字～800字程度）：

西夏～元朝期の黒水城（イスィナ路）跡であるハラホト遺跡および黒河流域から出土した諸言語文献は、コズロフ、スタイン、内蒙古文物考古研究所などの調査によって収集・公表されてきた。コズロフが1908年と1909年の2回におよぶハラホト調査によって、大量の漢語および西夏語の文献、少数のモンゴル語、チベット語、ウイグル語の文献をロシアに将来したなかで、1909年の調査で収集されたモンゴル語文献はロシア科学アカデミー東洋古文献研究所（サンクトペテルブルク）に所蔵され、計17点18件ある。ほとんどが断片的な文書である。その中で、文書として首尾の整った契約文書1点が1955年にクリーヴス F. W. Cleaves によって研究・発表され、また、2点の印刷断片（法律関連文献と仏教文献）がムンクエフ N. Ts. Munkuyev によって1970年に研究・発表され、さらに2003年、カラ G. Kara によって16点17件の文献のローマ字転写と訳註と白黒写真が公表された。

本発表では、ムンクエフが研究し、「法律文書」と位置付けたウイグル字モンゴル語印刷断片 G110r を改めて取り上げる。ムンクエフは、この文献のウイグル式モンゴル文字の行間に「推官」という漢字ルビが印刷されていることなどから、漢語文献からの翻訳である可能性を示唆したが、原典の比定には至らなかった。一方、我々は本文献に書かれた内容に対応する漢語の記述を元代の漢籍中に見いだし、この文献がモンゴル語訳『大元通制』の木版印刷本の断片であること発見した。漢文原文を参照しつつモンゴル語テキストの新解釈を行い、大元ウルス治下の行政文書についての新たな知見を示したい。